

2007年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年9月11日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子
山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：柳澤正樹<以上1名、敬称略>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(7・8月)
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(9月)
資料 4：2007年度第2回災害時のシステムづくり専門委員会会議録
資料 5：2007年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 6：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員候補者
資料 7：事業見直しに伴う2008年度事業および経費について
資料 8：2006年度実施事業評価結果
追加資料：2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練資料
追加資料：西東京献血推進協議会資料

委員長：2ヶ月ぶりの運営委員会となるがさっそく始める。1名の委員から欠席の連絡があり、他は全員そろったので、いつものように月次報告から始めたい。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

7月期・8月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき7月、8月に行われた主な事業について報告が行われた。

委員長：質問などあるか。防災シンポジウムはどのような内容だったのか。

事務局：東京消防庁が主催するシンポジウムで、地域防災組織などの取り組みが事例として出されていた。また専門家からの問題提起で、コミュニティの崩壊をどのように防いでいくかなどのお話があり、参考になった。

他に質問、意見なく、7月期、8月期の業務報告を終了する。

7月期・8月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき7月、8月のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：質問はあるか。

質問、意見なく、7月期、8月期のコーディネート状況の報告を終了する。

9月の業務予定

委員長：では、9月の業務予定について説明してほしい。

事務局より、資料3に基づき9月期の業務についての説明がある。

委員長：8日に行われている災害救援セミナーはどのようなものか。

事務局：安城市社会福祉協議会が開催したもので、新潟県中越地震で被災した障がい者から直接話を聞くことができた。被災後どのような人が関わって生活をしてきたかなどのお話があって、災害時の障がい者を取り巻く関係を知ることができた。また、災害時に障がい者がどのようなことを望むかも聞くことができた。

他に質問、意見なく、以上をもって9月期の業務予定の説明を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会（以下、「災害専門委員会」と表記）報告

事務局より、8月7日に開催された第3回災害専門委員会での協議内容について報告がある。また、2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練実務者会議、実行委員会での検討内容および進捗状況について報告がある。

委員長：帰宅困難者対応訓練について質問などあるか。

委員：訓練当日が雨でも帰宅困難者対応訓練は行われるのか。

事務局：雨天でも予定通り行われる。過去には大雨でも実施されたようだ。

委員：学生が協力することになるので、雨天時が心配だが。

事務局：雨天時の配慮は今のところ考えていない。今回の訓練の趣旨から特別なことをするものでもないと考えている。

委員：ゴール地点ではトイレが不足するのではないか。その対策が必要だと思う。

委員：近隣の商店などに協力を呼びかけてトイレを借りることが必要ではないか。

委員：指揮命令系統はどうなるのだろうか。

事務局：西東京ボランティア・市民活動センターが担うことになる。さらには統括責任者として災害専門委員長が担うことになると思う。

委員：西東京市民が参加することになるのか。

事務局：他地域からの参加者もあると思う。連合などの組織を通じて参加者を募るようなことも行われる予定になっている。

委員：参加した人たちを巻き込むようなことはできないのか。

委員：広報はどうなるか。

事務局：帰宅困難者対応訓練の参加者募集のための広報については、社協だよりに掲載することにしてはいるが、他については実行委員会と相談しながら行っていきたい。また、当日参加した人たちには、ボランティア・市民活動センターのPR用パンフレットなどを配布したいと考えている。

委員長：参加した人たちを対象にイベントを行うなどをイメージしていたが。

委員：6月に行われた帰宅訓練は参加者が数名という状況だったが、今回はどの程度の参加者を見込んでいるのか。

事務局：800人くらいの参加を見込んでいる。

委員：今回の帰宅困難者対応訓練は、帰宅困難者に対応する側の訓練なのか、それとも帰宅困難者となる参加者のための訓練か。

事務局：両方の立場の側の訓練となる。

委員：それならば、ただ参加者をゴール地点で受け付けて流すだけでよいのではないかと思う。

委員長：次回運営委員会で、詳細が明確になったことについて報告してほしい。

他に質問、意見なく以上をもって災害専門委員会の報告を終了する。

(3).西東京市社会福祉協議会組織変更に伴うボランティア・市民活動センター職員増について

事務局より、10月1日付けで組織変更が行われることに伴い、ボランティア・市民活動センター系の職員が1名増員となることが報告される。

委員長：今の報告は来年の4月から変更されるということか。

事務局：今年10月1日からの変更となる。

他に質問なく職員増となる報告について終了する。

(4).そ の 他

事務局より、職員増に伴う備品整備、経理システム変更に伴う電話回線変更および経理システムリース料予算化の必要性、保谷活動室移転予定、新潟県中越沖地震に関わる被災地支援のための職員派遣について報告がある。

質問、意見なく報告事項を終了する。

2.学 習 会

西東京市献血推進協議会の活動について

【委員からの話】

西東京青年会議所から運営委員会委員に選出ということであったが、昨年12月で青年会議所のメンバーから外れているので、今回の学習会では献血推進協議会についての話をしたい。

献血推進協議会の歴史、背景だが、1970年代後半から80年代にかけて全国的な献血運動が進められた。当時の青年会議所の先輩たちがこの運動に積極的に取り組んだ。様々な団体が協力、また行政にも協力してもらって献血運動が進められたと聞いている。

青年会議所がずっとかかわってくる中で献血推進協議会が形骸化してきていた。そのような状況で自分が西東京市献血推進協議会の代表となった。

過去には年間5,000名分くらいの献血があったときもある。特に田無地域には大企業があったので、多くの協力者があったが、市が合併した後、年々減って昨年度は1,904人の献血者となってしまった。平成19年度は150%アップを目指し、目標2,220人とした。口で言うのは簡単だが、学校、企業への交渉など大変な作業になる。献血推進協議会は協議体なので会に参加している各団体が献血活動を年に数回ずつ担うという形をとっている。現在は、32団体で構成されている。

1年間に32回程度の献血と会合を開催している。広報活動は、今まではほとんど何もやっていなかったという状態でポスター掲示くらいだった。このような方法では時代にあっていないということでホームページ、ブログを開設したり、メーリングリストをつくり活用している。FM西東京にも参加をしてもらうようになった。

青年会議所は明るいまちづくりを目指しているので、献血推進協議会の活動も青年会議所の目的の一つになっている。献血推進協議会の機能が形骸化してきた状況を変えようと代表を務めるようになった。NPO団体にも協力をしていただけたらありがたいと思っている。

【質問・意見交換】

委員長：質問はあるか。

委員：献血者が減少しているということだが、なぜ減少したのかというデータはあるのか。

委員：様々な問題点があるようだ。たとえば日赤病院の献血車の動きに合わせなければいけないという状況がある。献血者の受け付けを昼は休んだり、午後3時までだったりという制約があり、献血に協力しようという人たちの実情にあっていない動きとなっている。また、ひばりが丘駅南口には献血車を置けないため献血の協力を呼びかけることができないということも残念なことだ。早稲田大学の学生に対しても協力を呼びかけることが難しい状況になっている。改善するべきところはたくさんある。

委員：売血行為に当たるということで換金できるようなものを献血者にあげることができない。

委員：血液検査もできるということをもっとPRしてはどうか。

委員：ボランティアな行為ということで行っているのだから、あまりそういったことをPRすることはできない。また、献血条件も厳しくなっている。

委員：どのくらいの病気でどのくらいの血液を必要とするのか。

委員：一概には言えないと思うが脳梗塞の手術で800CCの血液が必要だった。

委員長：では、このへんで学習会を終了して審議事項にうつる。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：訂正などの意見はあるか。

修正、削除、追加等の意見なく、第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員候補者について

事務局より資料6に基づき、運営委員会委員候補者の事務局案の説明がある。

委員長：男女比率、地域別、法人・団体比率などを考慮してはどうか。他に候補者とする人はいるかどうかなどの意見はあるか。

委員：来年の12月に多くの委員が辞めるが、今いる委員が次の委員を推薦する必要があるのか。

委員長：各所属団体からの推薦で委員になっているわけではないと思うが、こういった人が次期運営委員にはよいのではないかというイメージはあるのかもしれない。

委員：委員候補者の活動内容や所属団体の内容をもう少し詳しく知りたいが。

事務局：候補者の一人はまちづくり活動をしている団体で、最近NPO法人となった団体である。

委員：東大農場のみどりを残す会からどなたか考えられないか。

委員長：10月に開催する運営委員会で再度検討したい。

運営委員会委員候補者について10月の運営委員会で再度検討することを確認した。

(3). 2008年度事業および予算（概算）について

資料7に基づき、事務局より2008年度の新規事業を中心に、事業内容および実施に伴う予算案の提案がある。

委員長：今日は時間がないので事務局からの説明にとどめ、10月開催の運営委員会で審議する。

2008年度の西東京市への補助金申請とともに10月の運営委員会で審議することを確認して終了する。

以上をもって、2007年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。